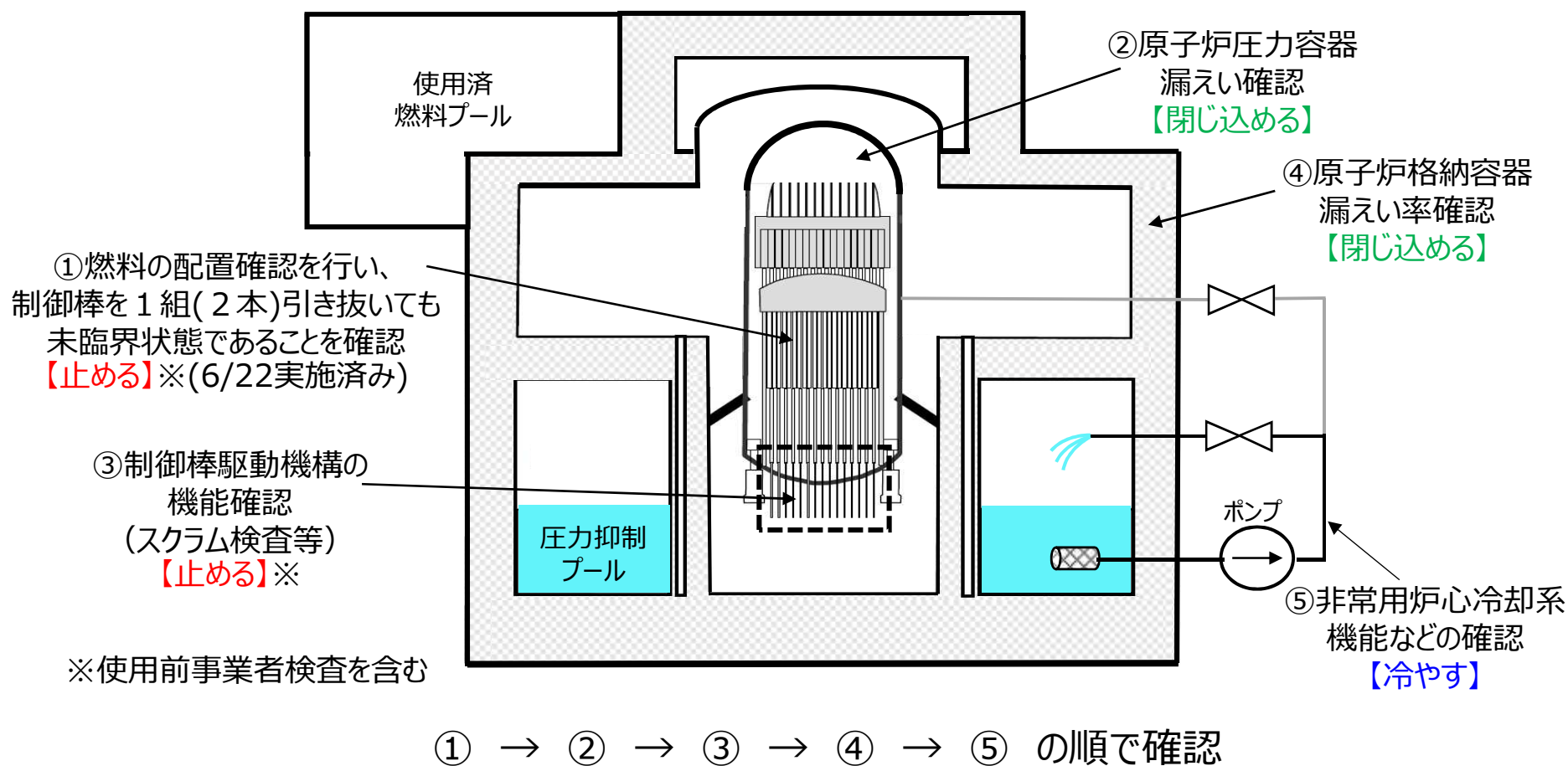


6号機における燃料装荷後の健全性確認について

資料1

2025年6月25日
東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

- 6月21日までに872体全ての燃料装荷作業を完了
- その後、燃料配置確認・未臨界状態の確認を6月21日～22日にかけて実施済み



プレス公表（運転保守状況）

発生日	2025年4月1日		
号機	-	件名	南66 k V建屋電源室（非管理区域）での火災の発生について（区分：I）
【事象の発生】 2025年4月1日午前10時37分頃、当社社員が3号機低起動変圧器防災装置の定例試験を行ったところ、電動弁が作動しないため、電源盤を確認したところ、炎と煙を確認したことから、初期消火を行い、炎と煙は収まっている。 - その後、午後1時35分に公設消防による現場確認の結果、火災と判断。（2025年4月1日にお知らせ済み） 【対応状況】 - 調査の結果、火災が発生した制御用補助変圧器と防災装置の電動弁との間をつなぐ制御ケーブルに地絡が発生。接地線を介して回路が形成され制御用補助変圧器（定格0.7A）に地絡電流（変圧器定格を上回る電流）が流れて、過熱したものと推定。（2025年4月10日にお知らせ済み） - 火災が発生した制御用補助変圧器について、当社研究所で調査した結果、変圧器自体の劣化や異常等が起因の火災ではないと判断。 - 電動弁に繋がる制御ケーブルを調査した結果、3号機タービン建屋 屋外の壁面に設置しているケーブルボックスの中で、ケーブルの一部に余長がなく、ボックス内の角に食い込んでいることを確認。ケーブルの1箇所、そこから地絡が発生したと推定。 ① ケーブルが敷設されている3号機タービン建屋周辺は、新潟県中越沖地震の際に地表面が沈下したエリア。 - 地震によって、地下に埋まっていた電線管が損傷を受け、また電線管内のケーブルも下に引っ張られる形となり、余長がなくなったものと推定。 - 当時、電線管の補修は実施していたが、ケーブルの引っ張りも含めた是正が十分でなかったため、ケーブル被覆がボックス内の角に押し付けられた状態が長年続いたことにより、徐々に損傷が進行したものと推定。 - 同様な事象を起因とした火災の発生を防ぐため、発電所全体で、地上から地面へケーブルがつながっている建屋壁面の屋外ケーブルボックスを抽出し、ボックス内のケーブル状況を確認。 - 高所等を除いた調査の結果、2箇所（1号機周辺）の余長不足を確認（1箇所は現在使用していないケーブルであり、端部を切断済）。（2025年5月22日にお知らせ済み） - 屋外ケーブルボックスの調査については、高所等を含めた全数のボックス内を確認し、追加で1箇所（4号機周辺）の余長不足を確認（計3箇所）。 - 現状、火災につながるリスクはないが、余長不足を確認した箇所については、適切に処置を実施していく。 - また、当社研究所でケーブル損傷の再現試験を行った結果、突起物を当てた状態でケーブルが引っ張られることにより被覆が損傷し、絶縁抵抗値が0になることを確認したことから、ケーブルの損傷箇所から地絡電流が流れて、変圧器の火災に至ったものと判断。			
＜再現試験＞ ケーブルに突起物を当てた状態で重りをぶら下げて、絶縁抵抗値の変化を計測			1

【参考】プレス公表 継続対応件名リスト

号機	－	件名	モニタリングポストの一時的な測定データ表示不良について（区分：Ⅲ）	発生日	2025年1月27日
号機	－	件名	海水モニタ、モニタリングポスト等の一時的な測定データ表示不良について （区分：Ⅲ）	発生日	2025年2月28日